



 シラバス参照

タイトル「2018年度シラバス」、フォルダ「**経済経営学類**」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	教養演習 I		
担当教員	<a href="#">野口 寛樹</a>		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	経:1
講義室			
開講学期	前期		
曜日・時限	木3	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
準備事項			
備考			
ナンバリング			
授業概要とねらい	大学では高校までの学習とは異なり、主体的な学び、つまり自らが考え、課題/問題意識を持ち行動をすることが重要となる。本演習ではその基礎を幅広くむため、まず社会には経営学が考えるべき、また取り組める問題が多あることを示し、学習の興味を高めていくことを目的とする。		
望ましい水準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学ぶことができる。</li> <li>・社会に興味を持つ。</li> </ul>		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションおよび各自の自己紹介 (1回)</li> <li>・コミュニケーションの手法(2回～3回)</li> <li>・文献や雑誌、論文等を用いた情報収集の仕方(4回)</li> <li>・輪読と発表(5回～13回)</li> <li>・レジュメの作成、プレゼンテーション方法(14回)</li> <li>・本演習のまとめ(15回)</li> </ul> <p>学外研修、図書館ガイダンスなどがあるため、上記の授業計画が変更になる場合がある。</p>		
教材・教科書	輪読の図書に関しては、企業小説、またテレビやドラマを対象にした書物 (例えば、金井壽宏他(2005)踊る大捜査線に学ぶ組織論入門、かんき出版)を読む予定をしている。		
参考図書	必要な図書、資料については随時アナウンスする。		
参考URL	特になし。		
授業以外の学習	新聞、雑誌等を読むこと、またTV等社会に興味を持つような活動を求める。		
成績評価の方法	①出席状況、②演習での発言、③プレゼンテーションの準備・内容を考慮し、総合的に評価をする。  成績評価の基準評価方法や評価基準については、第1回目の授業で詳しく説明する。 受講する学生は第1回目には必ず出席をもとめる。		
成績評価の基準	点数化をした場合、以下が目安となる。 A...80点以上 B...70点以上80点未満 C...60点以上70点未満 D...50点以上60点未満 F...50点未満		
オフィスアワー	メールで随時受け付ける。また短時間であれば授業後に受け付ける。		
留意点・注意事項			
その他			
カリキュラムにおける当該科目の位置付け1	経済経営学類のディプロマポリシー / 自分の意見を述べ討論し文章で表現できるコミュニケーション能力(経済経営学類-2)		
カリキュラムにおける当該科目の位置付け2	幅広い教養/学問的思考の基礎(幅広い教養2)		
カリキュラムにおける当該科目の位置付け3			
カリキュラムにおける当該科目の位置付け4			

カリキュラムにおける当該科目の位置付け5	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け6	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け7	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け8	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け9	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け10	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け他	



-----  
Copyright (c) 2004-2011 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.